

良きグローバル・カバナンスの展望はイマニュエル・カントが表明して以来多くの知識人を引きつけてきたが、現在生起している事態から明らかなのは、これがもはや単なる予言的な願望であることをやめ、喫緊の課題となっていることである。

しかしながら、この新しい課題を展望するにあたって、これまで誰も想像できなかった問題が存在している。すなわち、多国籍大企業との地球規模での対話なしに実効性のある解決策はありえないということであり、そのことを諸国家はしっかりと認識しなければならない。またグローバル大企業（多国籍大企業）の役員会も、これまでのように自分たちを私的な集団であるとみなすのではなく、その決定が地球規模での公共の利益を左右する組織なのであることを自覚しなければならない。